

平成26年度 第1回事業評価監視委員会 議事録

1. 日 時：平成26年8月8日（金）14：45～17：10

2. 場 所：北陸地方整備局 4階 共用会議室

3. 出席者：

委 員）大川委員長、川村委員、石黒委員、小熊委員、川邊委員、長谷川委員、
細山田委員、水野委員

整備局）局長、次長、総務部長、企画部長、建政部長、河川部長、道路部長、
港湾空港部長、営繕部長、用地部長他

事務所）利賀ダム工事事務所長

4. 審議案件

重点審議

1) 道路事業の再評価

◆国道159号羽咋道路（金沢河川国道事務所）

◆国道470号輪島道路・輪島道路Ⅱ（金沢河川国道事務所）

2) 河川事業の再評価

◆手取川直轄河川改修事業（金沢河川国道事務所）

◆庄川直轄河川改修事業（富山河川国道事務所）

3) ダム事業の再評価

◆利賀ダム建設事業（利賀ダム工事事務所）

報 告

1) 河川事業

◆信濃川水系河川整備計画（信濃川下流河川事務所）

（信濃川河川事務所）

（千曲川河川事務所）

（三国川ダム管理所）

（大町ダム管理所）

5. 審 議

重点審議

1) 道路事業

◆国道159号羽咋道路

（委 員）

- ・ 能越自動車道の田鶴浜IC～城山IC間の計画路線（P4参照）を考慮しているのか。
田鶴浜IC～城山IC間の道路が開通すると、のと里山海道に交通がシフトし羽咋道路の交通量が減少するのではないか。

（整備局）

- ・ 今回の交通量推計は、のと里山海道の無料化後の現状の交通量を考慮している。交通量だけではなく、羽咋道路の整備により、大型車の転換による生活道路の安全性向上や、羽咋市周辺都市への通勤や通院のアクセス向上など、その他の効果もある。

(委員)

- ・ 大型車は田鶴浜ICからの道路を通り羽咋から七尾方面へいくのかも知れないが、生活道路としての観点からこのバイパスは必要と言う事か？

(整備局)

- ・ 生活道路の観点からも必要と考えている。

(委員)

- ・ 私の地元であり、周辺道路の状況を良く知っている。羽咋道路に並行する（主要地方道）七尾羽咋線は過去に豪雨等の自然災害による被災など、脆弱な道路であり羽咋道路は必要だと考えている。

(委員)

- ・ 究極に詰めると今のバイパスの南側の先はどうして一緒にやらないのか？事業単位は半分の区間となっている。バイパスの機能としては一体だと思うが、理由は？

(整備局)

- ・ のと里山海道の千里浜ICとのアクセスもあり、一定の効果が見込まれるこの区間を先行して事業化している。

(委員)

- ・ 羽咋道路については、6.7kmの暫定2車線が開通後、4車線整備は暫定2車線の開通効果を見てと言うことだと思う。暫定2車線の効果を確認し、完成4車線とする際もその事を踏まえて検討を行った方が良いのではないか？

(整備局)

- ・ 様式集に供用開始年次が記載されているが、B/Cの計算上は、平成33年に暫定2車線開通、平成36年完成としている。暫定2車線でも一定の効果はあると考える。

(委員)

- ・ 積極的に事業に取り組むことが重要。
能登有料が将来4車線化計画がある事、無料化により交通量が、2倍程度になっている状況にある。
暫定2車線の開通効果を踏まえた上で、完成4車線とする際の検討を行って頂きたい。

(委員長)

- ・ 事業継続ということで確認した。
- ・ 暫定で開通した後、暫定2車線の効果を確認した上で次のステップを検討されたい。

◆国道470号輪島道路・輪島道路Ⅱ

(委員)

- ・ のと里山海道が無料化となり、交通量が2倍～2.5倍となっている。その先に輪島道路と言う高規格道を作ってもらえる事だが、おそらくかなりの便益がある。数字でも出ている。非常に良い計画だと思っている。
事業評価に係る、一まとまりの評価は大賛成である。
ただし、便益をできる限り早く発現するためにどうすべきかと言う所が大事だと思う。
完成4車線だが、まずは暫定2車で便益を発現させる。

三井IC開通後、三井ICから県道輪島線まで擦り付けると部分開通の便益が出る。先線が工事期間中であっても便益が出る。
道路の便益をできる限り早期に最大限発現する様、早期開通の努力をする事を願う

(委員)

- ・ 早期に便益が発現するなど、分かり易い説明もされると、こう言う事で一つにまとめて良いのだと分かると思う。これを否定するものでもないし、良い事だと思う。

(委員長)

- ・ 三井IC～県道の取り付け道路は地元自治体で行うのか？

(整備局)

- ・ そのとおりです。

(委員長)

- ・ 事業継続ということで確認した。
- ・ 効果はできるだけ早く発現できるよう常に工夫・努力されたい。利用者の利便性を早く高めるの一言に尽きる。

2) 河川事業の再評価

◆手取川直轄河川改修事業

(委員)

- ・ 1/100計画降雨量を決めるにあたってのデータの期間は？最近では異常な大雨等もあり、その期間を含まなくて、大丈夫か？計画を見直すことも必要では？

(整備局)

- ・ データ期間は、昭和4年～平成13年で確認している。計画の見直しについては、必要に応じて実施することもあり得る。

(委員)

- ・ P11以降のシミュレーション結果をみると1/40洪水の被害が解消されている。1/100は過剰投資と言われないか？

(整備局)

- ・ 計画規模については、背後資産の状況等総合的に勘案し設定されている。手取川の将来計画は1/100であり、整備計画はその段階的な目標。今回の結果はその目標に対して結果を示したものの。1/40以降の投資は過剰では無く、将来計画に向けたもの。

(委員)

- ・ 様式集を見ると被害額は左右岸で分かれているが、便益は合計で示している。効果を分かり易く見せるために、便益も左右岸で分けてもよいのでは？

(整備局)

- ・ 掘削等事業によっては左右岸への割り振りができないものもある。様式集に記載しており、ブロック単位で被害計上をしているが、河川整備の均衡性から河川としての評価は全体で実施している。

(委員長)

- ・ 分けて示すのは悩ましい問題であると思われる。整備にあたっては左右岸の均衡が重

要であり、示すことで地域へ与える影響もかなりかる。

(委員)

- ・ P 1 の流域内人口と想定氾濫区域人口の数値は正しいか？図1-2の表示範囲をみると違うように見えるが？

(整備局)

- ・ 面積でみるとそのようにみえるが、流域と重ならない左岸の想定氾濫区域における人口及び密度が高いためである。

(委員)

- ・ 氾濫シミュレーションで用いる外力はどのように設定しているか？整備計画規模との関係は？

(整備局)

- ・ マニュアルに沿って、上限を計画規模 1/100 とし、それ以下で適宜設定することとしており、1/10, 1/20, 1/30, 1/40, 1/50, 1/80, 1/100 としている。手取川では、整備計画規模と基本方針規模が同じく 1/100 である。

(委員長)

- ・ 事業継続ということで確認した。

◆庄川直轄河川改修事業

(委員)

- ・ P19 にて、H17 から H22 で総人口が横ばいとなっているようだが、今後の推移は分かるか？

(整備局)

- ・ 今後のことは分からない。なお、便益計算においては将来の変化は考慮せず、現況で実施している。

(委員)

- ・ P11 に利賀ダムの B/C はあるか？

(整備局)

- ・ 本資料では庄川直轄河川改修事業の B/C を示しており、ダムのみでの記載はない。但し、参考としてダム事業も含めた B/C を示している。

(委員)

- ・ B/C について、河川改修で 28.3、ダム含むもので 9.8 とあるが、なぜ値が下がっているのか？

(整備局)

- ・ ダム事業の費用によるものである。

(委員)

- ・ ダム事業を含む費用対効果分析の基準年はいつか？またダム事業の完成年度は？

(事務所長)

- ・ 基準年は、H26 年度である。またダム事業の完成年度は H34 年度としている。

(委員長)

- ・ 事業継続ということで確認した。

3) ダム事業の再評価

◆利賀ダム建設事業

(委員)

- ・ 検証を終えて、完成させて貰いたい。

(委員)

- ・ P14 参考で示している河川整備計画の B/C の残事業の値が庄川資料と違っているが？

(整備局)

- ・ 庄川資料が正である。訂正する。(10.8→11.0)

(委員長)

- ・ 事業継続ということで確認した。

4) 河川事業報告

◆信濃川水系河川整備計画

- ・ 委員より、報告に関する意見・質疑はなし。

■ 委員長総括

- ・ 道路事業について、バイパス事業は一括し早期に供用してほしいと言う事と、暫定供用の時点で開通効果の計測を行い、その先の 4 車化のステップを検討頂きたい。
- ・ 河川事業については、日本・世界的に異常な気象状況となっている。その中、人命、資産を守ると言う事は、インフラ整備と言う事になるので、ぜひ進捗を図ってもらいたい。

以上